



2008年3月期 業績概要

2008年4月25日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向
や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが
引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2008年3月期の業績の概要
- 2009年3月期の通期見通し
- 2008年度の取り組み

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

1

セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門の主な所在国
計測器	NGNおよびインフラ関連	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・デンマーク・フランス・イタリア
	携帯端末	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国
	汎用	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

サマリー(1)



1. 2008年3月期業績(連結)サマリー

(単位:億円 四捨五入)

	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	989	1,015	26	3%
売上高	994	1,005	11	1%
営業利益	64	54	△ 10	△ 16%
経常利益	32	△ 20	△ 52	-
税引前当期純利益	31	△ 32	△ 63	-
当期純利益	14	△ 39	△ 53	-
フリーキャッシュフロー	29	39	10	33%

本業では利益を上げたが、体質改善のための費用(棚卸廃却、特別損)計上のため、最終赤字

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 営業概況

■事業セグメント別

計測器	売上は前年並み、営業利益は減少 サービス・アシュアランスが急伸するも、新製品市場浸透に進捗遅れ
情報通信	売上、営業利益は前年並み、黒字確保
産業機械	増収増益、食品の品質検査用が好調

■地域別

日本	3G携帯電話製造用計測器の需要により前年並み売上 第3四半期より受注が減速
米州	前年のような大型案件はないものの前年並み売上 第4四半期に受注が若干減速、円高の影響も
EMEA	サービス・アシュアランス好調、3G開発用が減速
アジア他	端末製造用は伸びるも、中国内需の抑制が影響

3. 「経営革新2008」の実行

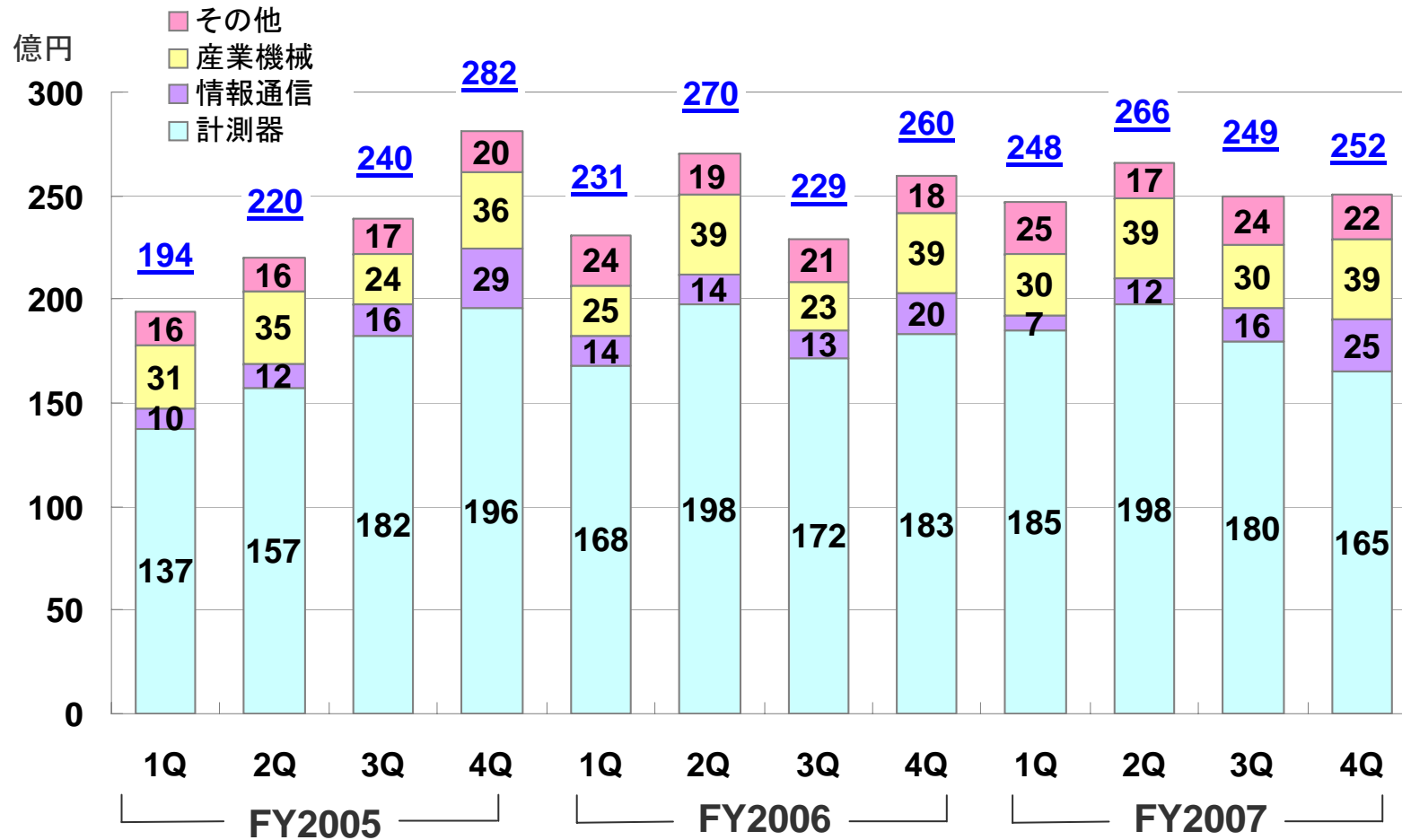
- ・4月1日付で、本社組織を、事業部制から営業・CRM、R&D、SCM、コーポレートの4機能別組織に再編、本体を計測器事業会社化
(注) CRM – Customer Relationship Management, SCM – Supply Chain Management
- ・低収益な製品群の整理と、関連する棚卸資産の処分、関連部門の整理
- ・4月1日付で、精密計測部門をアンリツプレシジョン(株)として分社

■「経営革新2008」による計上済費用(営業外費用、特別損失)

・棚卸資産廃却損・評価損:	34億円
・無形固定資産の減損:	6億円
・特別退職金等:	6億円
合計	46億円

■上記以外の海外オペレーションリストラ費用(営業外費用): 4億円

事業別受注推移(連結)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)

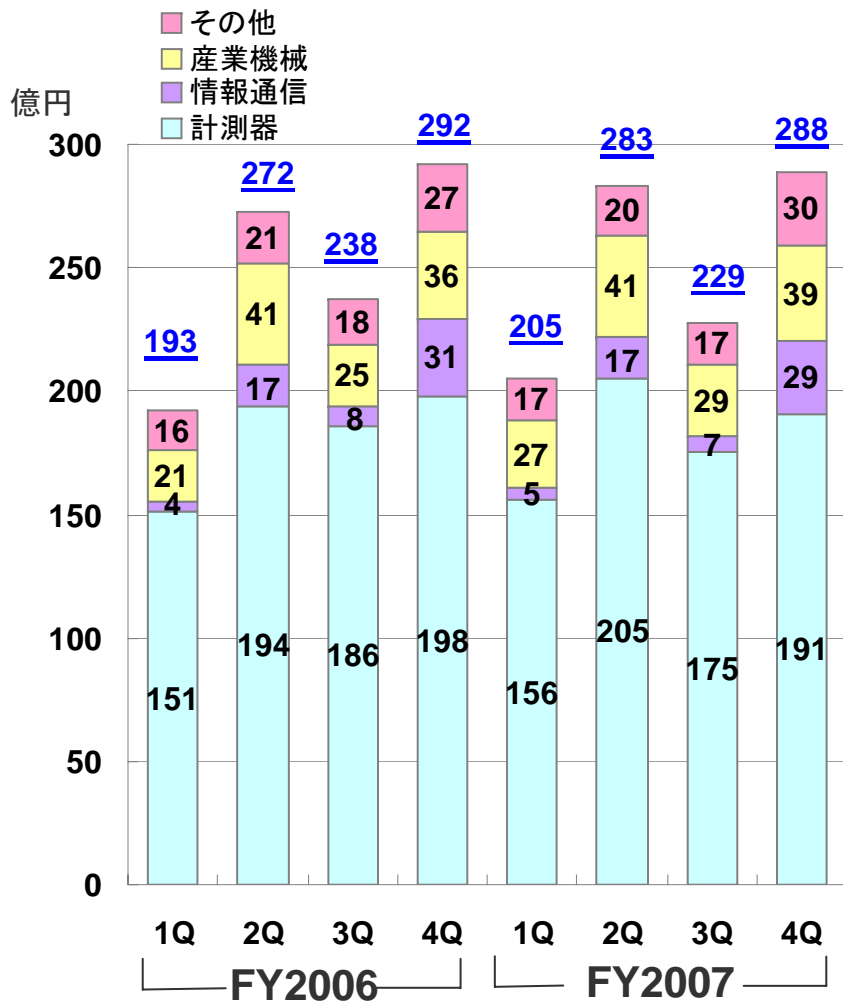
(単位:億円 四捨五入)

		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測器	売上高	729	727	△ 2	△ 0%
	営業利益	47	41	△ 6	△ 13%
情報通信	売上高	60	57	△ 3	△ 4%
	営業利益	1	1	-	-
産業機械	売上高	123	136	13	11%
	営業利益	6	8	2	34%
その他	売上高	83	84	1	2%
	営業利益	9	3	△ 6	△ 62%

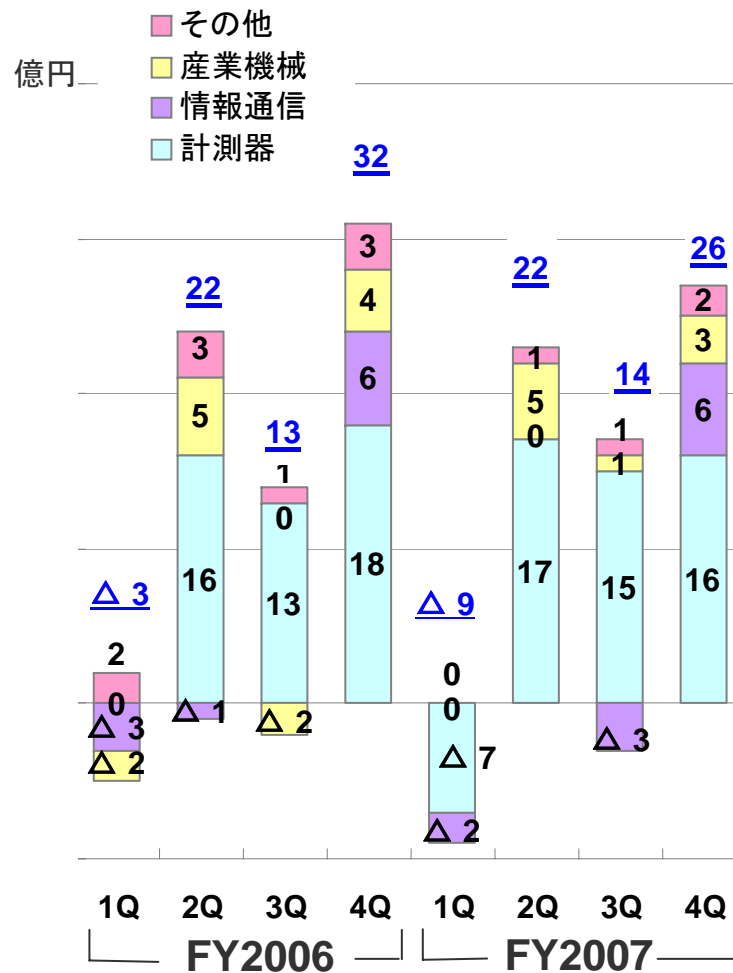
連結営業利益の減少は、計測器・その他事業の収益の悪化による
(サービス・アシュアランスの収益性改善は計画通り進捗)

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



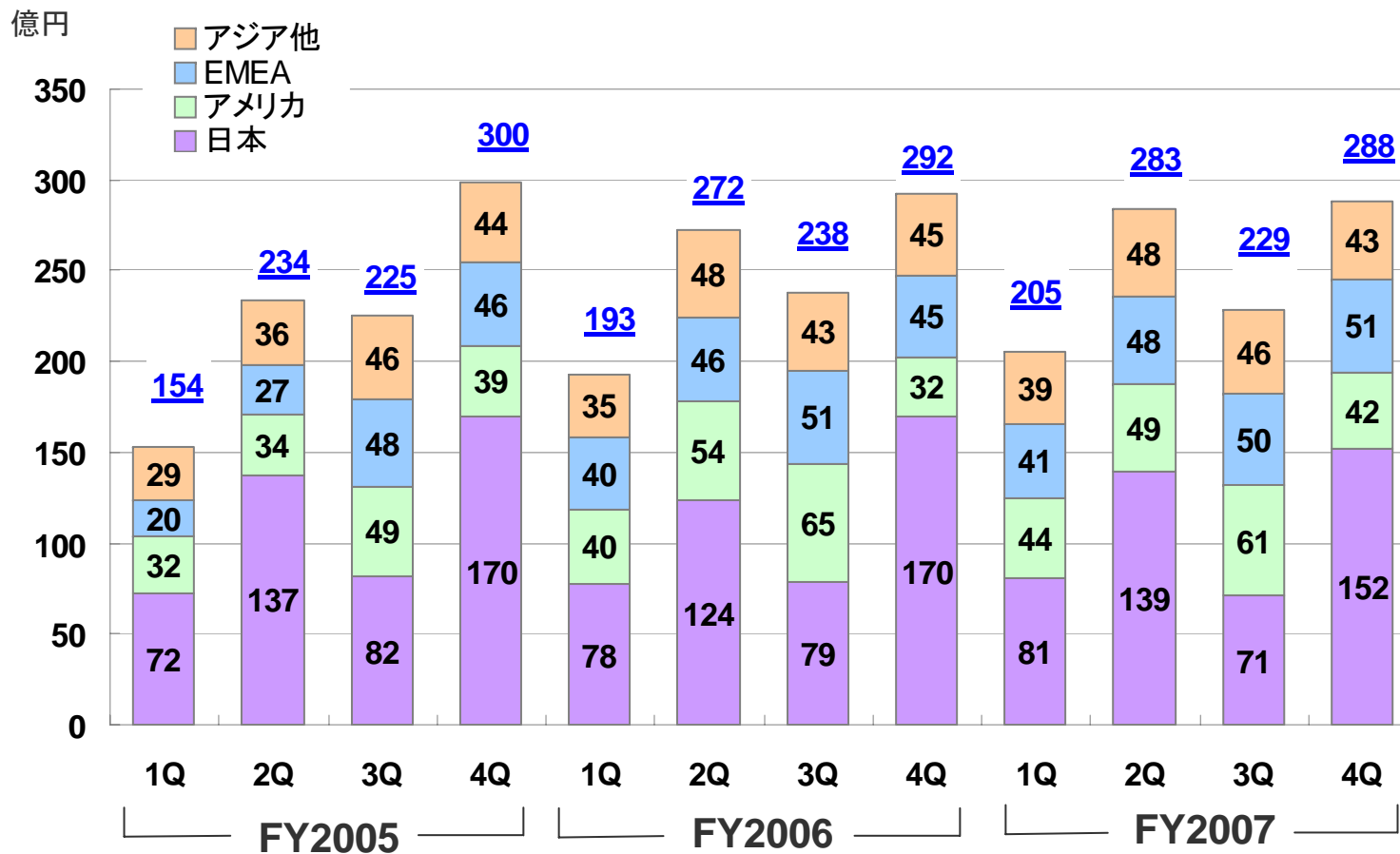
連結売上高



連結営業利益

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

地域別売上高推移(連結)



(注1) 2006年度から「ヨーロッパ」を「EMEA」(欧州・中近東・アフリカ)に変更。過去のデータはすべて現在の定義に修正済み。
 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

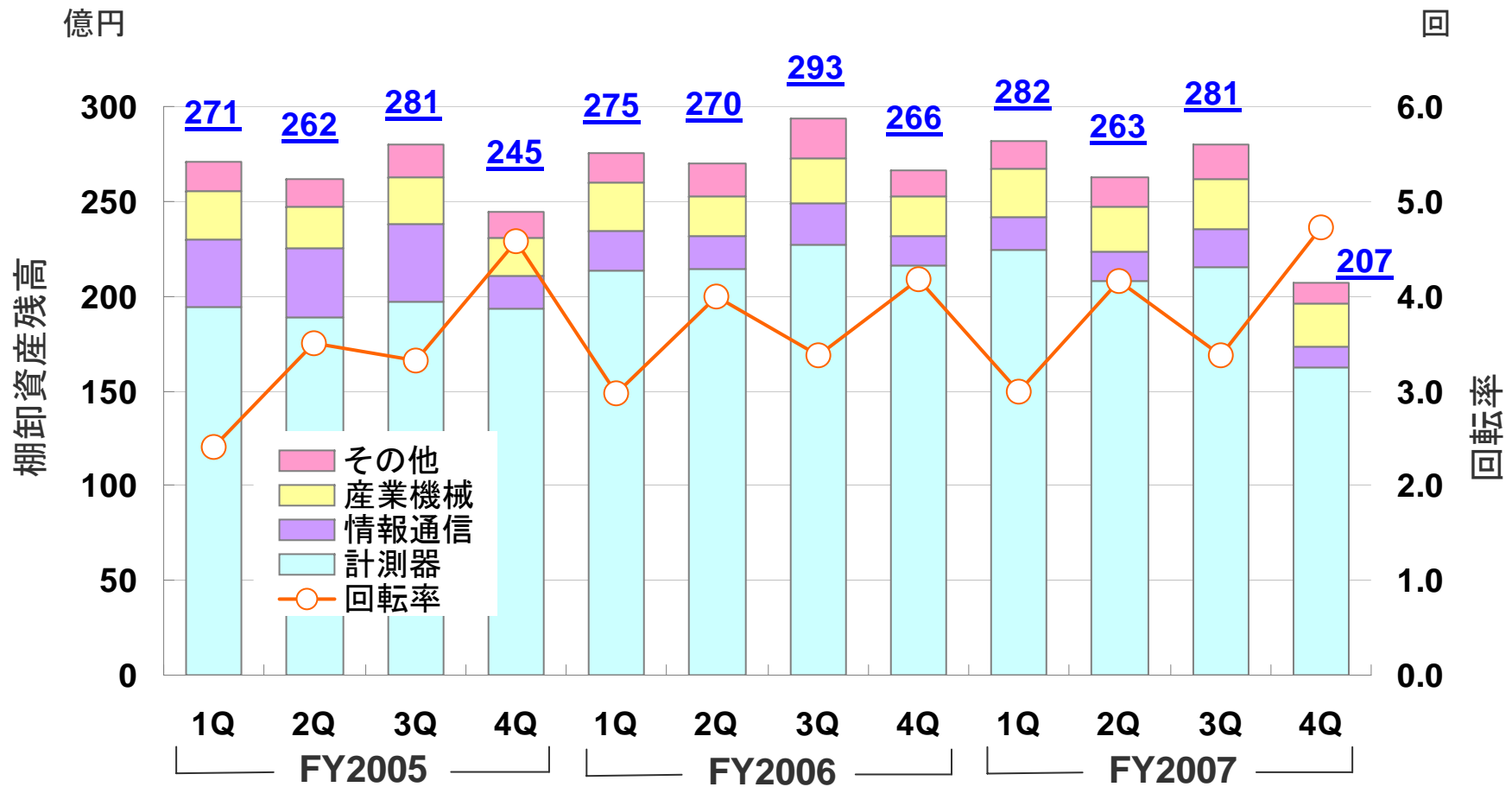
営業外・特別損益概要(連結)



単位:百万円 四捨五入

		前期実績	当期実績
営業利益		6,359	5,356
	金融収支	△ 836	△ 634
	棚卸資産廃却損・評価損	△ 1,654	△ 5,648
	為替差損益	△ 465	△ 259
	その他	△ 210	△ 821
営業外損益計		△ 3,165	△ 7,362
経常利益		3,194	△ 2,006
	R&D資産評価損	-	△ 564
	転籍一時金・特別退職金	△ 331	△ 565
	固定資産売却損益	△ 47	35
	その他	286	△ 57
特別損益計		△ 92	△ 1,151
税引前利益		3,101	△ 3,157

棚卸資産残高推移(連結)



(注1) 回転率 = 四半期売上高 × 4 / 四半期単位平均棚卸資産 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



当期

- ①営業CF: 63億円
- ②投資CF: △24億円
- ③財務CF: △66億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 39億円

現金及び現金同等物の 期末残高

167億円

		内訳	単位: 億円 △: 減少
その他 17			
仕入債務 10			
減価償却・ のれん償却 40			
棚卸資産 50			
税引前利益△32	設備投資 △24		社債 100
売上債権 △16			配当金支払 △9
			借入金 △7
税金 △7			社債 △150
営業CF 63	投資CF △24	財務CF △66	

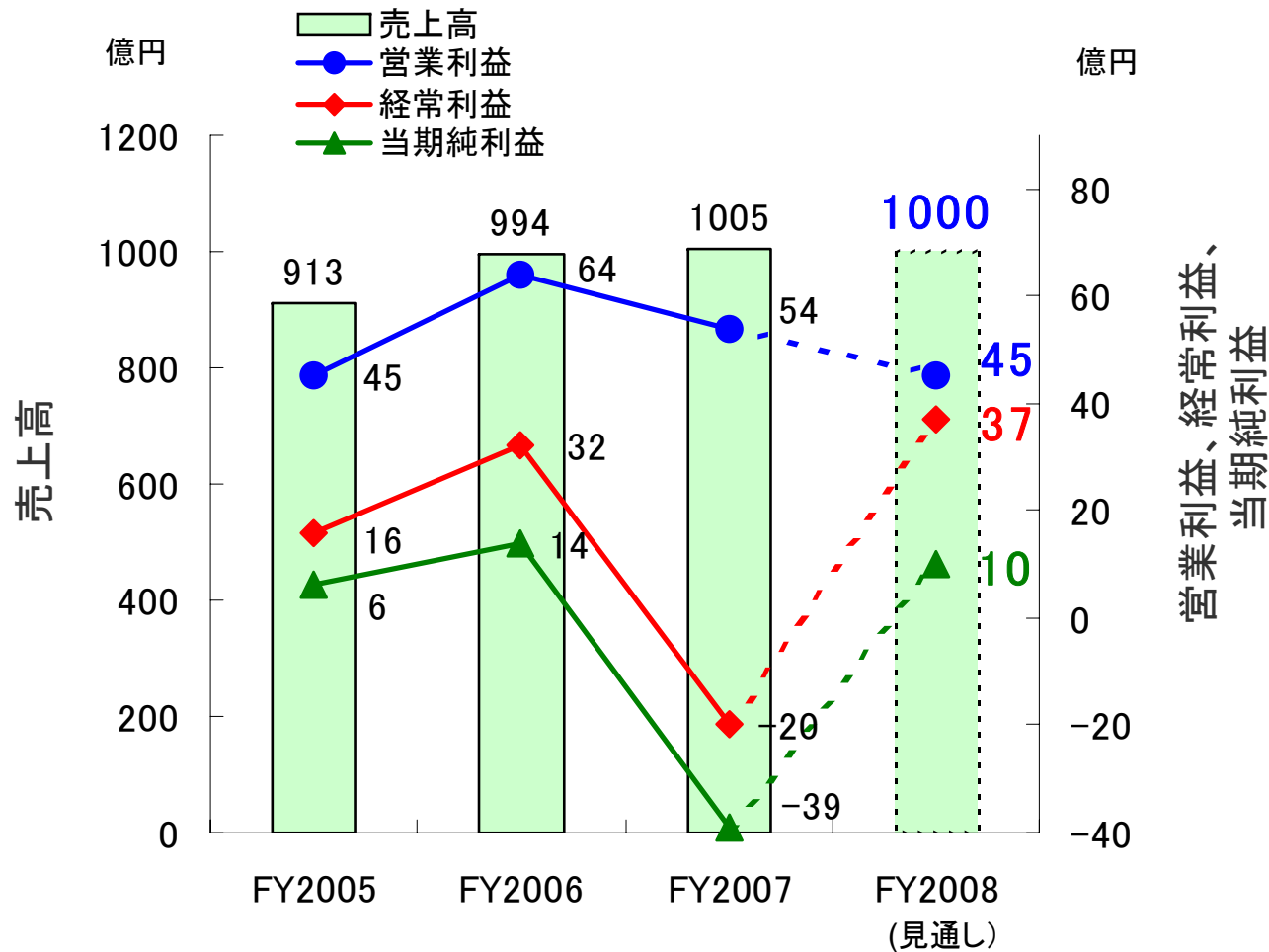
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2009年3月期 通期見通し(連結)

2009年3月期 通期の見通し(連結)



通期業績の推移



2009年3月期 通期の見通し(連結)



単位:億円

	2008/3期	2009/3期		
	通期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高	1,005	1,000	△ 5	△ 0%
営業利益	54	45	△ 9	△ 16%
経常利益	△ 20	37	57	-
当期純利益	△ 39	10	49	-

(為替の前提: 1 \$ = 100円)

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

配当: 1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定

(注)今期の通期見通しには、以下の内容が反映されています。

■ 棚卸資産廃却損・評価損の計上方法の変更

デモ機・部品などの棚卸資産廃却損・評価損は、従来「営業外」で計上しておりましたが、今期より「売上原価」(営業内)に計上します。(経常利益ベースでは、影響ありません。)

■ 低価法の適用に伴う棚卸資産評価損の計上

今期より棚卸資産の評価方法として低価法を適用します。

今期初に過去分として特別損失に計上する評価損は、約15億円の見通しです。

2009年3月期 通期の見通し(連結)



単位:億円

		2008/3期	2009/3期		
		通期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測器	売上高	727	715	△ 12	△2%
	営業利益	41	30	△ 11	△27%
情報通信	売上高	57	60	3	4%
	営業利益	1	1	-	-
産業機械	売上高	136	145	9	7%
	営業利益	8	10	2	23%
その他	売上高	84	80	△ 4	△5%
	営業利益	3	4	1	18%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

- ・「経営革新2008」の着実な実行による計測器事業の利益確保
- ・サービスアシュアランス事業の更なる成長
- ・産業機械事業の安定的な成長

利益確保の方策

- ◆SCMの見直し、経費削減によるコストダウン
- ◆R&D費の投資効率改善（開発ROIで総額管理）
- ◆低収益性製品の整理、新製品へ置き換え促進
- ◆新組織によるマーケティング力強化により
商品企画力強化

(注) SCM: Supply Chain Management 開発ROI: Return on Investment = 売上総利益 / R&D費

NGN及びインフラ関連分野

次世代通信向け
計測ソリューション

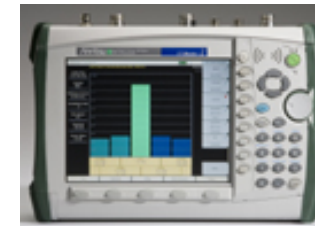
サービス・
アシュアランス



ブロードバンド
IPネットワーク計測



無線基地局
計測



- ◆通信システムのサービス品質保証の需要拡大に応えるサービス・アシュアランス事業の更なる成長
- ◆光、IPネットワーク関連新製品の海外市場向け拡販
- ◆無線基地局建設・保守用ハンドヘルド製品の持続的な成長

携帯端末分野



- ◆携帯端末製造用計測器のアジア市場への拡販
- ◆次世代携帯電話(LTE)開発用の新製品投入

汎用計測分野



- ◆無線関連部品、カーエレクトロニクスなどへの拡販
- ◆汎用ハンドヘルド製品の拡販

(注)LTE : Long Term Evolution

海外ビジネスの拡大

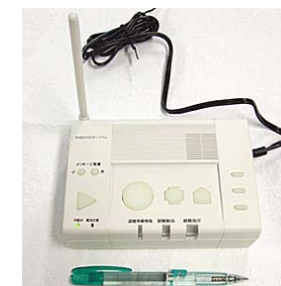
- 世界的に食の安全に対する関心の高まり
X線異物検出機を中心に欧米向けの
売上拡大
- ASEANを中心に水産物輸出の需要が継続
多段階計量システムの拡販
サプライチェーンの改善（現地生産）



X線異物検出機

情報通信事業

- ・大手システムインテグレータとの協業で、社会インフラ向けシステム市場にソリューション提供
- ・セキュリティ監視IPシステム（鉄道、道路など）
- ・高品質、セキュリティ確保のIPネットワーク
- ・「双方向型減災コミュニケーションシステム」（地方自治体向け）



減災コミュニケーションシステム端末

その他事業

■精密計測事業

- ・独立採算による事業運営体制で事業育成を図るために、4月1日付で分社化 アンリツプレジジョン誕生
- ・新型印刷はんだ検査機の拡販
- ・EMS活用によるコストダウン



印刷はんだ検査機 SOLLEAD

中期的経営目標に向かって



計測器事業の改革による損益構造の改善
産業機械事業の海外ビジネス拡大
情報通信事業のSIer協業拡大による売上確保